

血液透析患者におけるL-カルニチン静注投与の骨格筋への効果

医療法人衆和会 長崎腎病院

○宮本教司 林田征俊 矢野利幸 高木伴幸 河津多代 久原拓哉 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司
船越 哲

【背景】

透析患者に対するL-カルニチン補充療法は、貧血・心機能における有効性は概ねコンセンサスが得られているが、骨格筋への効果については報告が少ない。

【目的】

L-カルニチン静注の筋力改善効果を検討する。

【対象】

当院維持血液透析患者 172 名(男 116 名、女 56 名、平均年齢 68.2 歳)。

【方法】

L-カルニチンを 3 か月間静注投与し、投与前後の握力、生化学検査データを比較検討した。また、サルコペニア診断の握力基準値(男 26 kg、女 18 kg)以上群、以下群に分類し、投与効果の検討を行った。

【結果】

L-カルニチン静注開始後、平均握力は 19.8 kg から 21.4 kg へ有意に上昇した。(P<0.01)サルコペニア診断基準値で比較した結果、男女ともに基準値以下群において、有意に握力が上昇していた。(P<0.01)

【考察】

カルニチン投与は、サルコペニア状態にある血液透析患者の筋力向上に有用である可能性が示唆された。